

第27回ITER理事会の 結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

日程： 令和2年11月18日（水）・19日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大のため、前回に引き続きテレビ会議により開催。

議長： ルオ 中国科学技術部核融合エネルギー計画執行センター長

出席者：

（日本）松尾 文部科学審議官、鎌田 QST那珂研副所長（文部科学省参与）ほか

（欧州）ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長ほか

（米国）ビンクリー エネルギー省科学局次長ほか

（ロシア）ボロフコフ 連邦政府官房副補佐官ほか

（中国）ホワン 科学技術部副部長ほか

（韓国）イ 科学技術情報通信部宇宙・原子力・巨大科学政策局長ほか

（インド）グローバー 原子力委員会委員ほか

（ITER機構）ビゴ機構長、多田副機構長ほか

議題：

（1）開会挨拶（議長、各極首席政府代表、機構長）

（2）ITER計画進捗報告

（3）ITER建設活動のマネジメント

（4）その他



（令和2年11月時点・ITERサイト）

1. ITER計画の進捗

- 運転開始（ファーストプラズマ）までの建設作業は約71%進捗。
- コロナ禍においても、**主要機器がITERサイトに納入**されるなど、**組立作業が進展**。

- **日本・欧州の超伝導トロイダル磁場(TF)コイル4機が順次サイトに到着。**
日本のTFコイルの到着状況：1号機（**世界初号機**）2020年4月25日到着
2号機 同年7月3日到着
- 韓国の真空容器が8月にサイトに到着。



(運搬中の日本のTFコイル2号機)

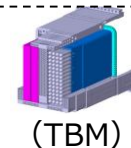
- 他方、新型コロナウイルスの感染拡大がプロジェクトの進捗に影響。
- 新型コロナウイルスによる影響を全体的に評価できるまで、現行のスケジュール（※）を維持。
- ※ 2025年 運転開始（ファーストプラズマ）、2035年 核融合運転開始
- 影響を最小化する対策を講じるとともに、次回理事会（2021年6月）において新型コロナウイルスによる影響を更に評価。

2. TBM試験計画への参加極の決定

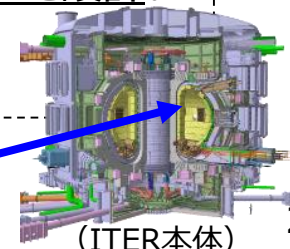
- **TBM（テストブランケットモジュール）** は核融合炉からエネルギーとして熱を取り出すための機器。

- TBMは核融合発電を実現する上で重要な機器であり、計画に参加する各極は**独自のTBMを設計**。
- 最も優れた性能のブランケットが、核融合発電の実用段階（今世紀中葉）での世界標準となる可能性が高い。

- ITERの設計上、TBM試験を実施できるのは4個の機器に限定。
⇒ **日本の提案するTBMの参加が決定**。 ※他の参加極はE U・中・韓



(TBM)



(ITER本体)